


2nd
アナウンスメント
ann
ounce
ment

日本獣医臨床病理学会 2022年次大会

オンライン開催

正確な臨床検査のためにいま私たちができること

オンデマンド配信 

9 | 1 - 9 | 30
2022 | THU | FRI



大会参加登録

■ 大会参加費

- 会 員 3,000 円
- 非会員 (獣医師等) ... 5,000 円
- 動物看護師 2,000 円
- 学 生 1,000 円

■ 参加登録期間

7月4日(月)～9月29日(金)

参加登録は会期前日まで受付致します

■ 参加登録 下記URLより受付します

<https://form.run/@jsvcp-2022>



お支払い方法

クレジットカード支払い・銀行振込

検査に関わる人、
集合せよ

JCM[®]
0°C
1792
B
St. Britan



主 催 : 日本獣医臨床病理学会
大会長 : 西飯直仁 (岐阜大学)
実行委員長 : 米澤智洋 (東京大学)



日本獣医臨床病理学会

<http://www.jsvcp.jp/>

教育講演：正しい検査ルーティーンを身につける

- モリーター：井手香織(東京農工大学)
- エキは作れる!? ウソの結果をもたらす、検体取扱いの落とし穴……井手香織先生(東京農工大学)
 - その検査の値、どこまで信じる? 院内測定に限界を知る……早川典之先生(日本獣医生命科学大学)
 - それって今日診断できます! 内分泌検査機器アップグレード……湯木正史先生(湯木どうぶつ病院)
 - 自動CBCを糞呑みにしない! 塗抹検査で正しく補正できる……久末正晴先生(麻布大学)

シンポジウム：意外と知られていない動物医療の臨床検査事情

- モリーター：早川典之(日本獣医生命科学大学)
- ナルホド納得、生化学・免疫学的検査結果の作り方……浅井智仁先生(富士フイルム株式会社)
 - 鏡検にどこまで近づいた血球計算装置……齊藤憲祐先生(株式会社堀場製作所)
 - 検査結果に納得できる? 検査管理と基準範囲……末吉茂雄先生(女子栄養大学)
 - それでは検査結果を考えてみよう……早川典之先生(日本獣医生命科学大学)

細胞診・フローラボ

- 細胞診基礎教育：標本の作り方と細胞診からわかること……浅川 翠先生(どうぶつ総合病院, DACVP)
- フローラボ：一緒に標本から診断をしてみよう……

石崎植太先生(ノースポ, DACVP) 田邊美香先生(動物病理診断センター, DACVP)
 小笠原聖悟先生(小笠原犬猫病院, IDEXX, DACVP) 皆上大吾先生(東京農工大学) 根尾櫻子先生(麻布大学, DACVP)

募集期間を延長しました

抄録応募期間
 ■ 2022年6月1日(水)～7月19日(月)

(右のQRコード(演題登録フォーム)より受け付けます)



一般演題

獣医臨床病理学に関わる演題

1. 症例報告：臨床症例の検査、診断に関連した報告(症例の新規性にかかわらず、広く募集します)
2. 研究発表：検査法、診断法に関する研究成果の発表(犬猫に限らず、大動物、野生動物など幅広く募集します)

一般演題を募集しています

動画

- 発表形式：オンライン発表(オンデマンド配信)
- 発表者の方は参加登録をお願いします。
 - 優秀な発表はアワードとして表彰します。
 - (大学教員および元教員は対象外です)

協賛・広告掲載 申込方法

オンライン・コンテンツ内で

パナー、販促動画等の枠を企画中です。
 詳しくはHPをご覧ください(協賛案内頁)。

お問い合わせ

日本獣医臨床病理学会 事務局
 〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-9-19
 TEL: 03-5916-0180 FAX: 03-5916-0181
 E-MAIL: info@jvcp.jp

日々の診療で、検査値に疑問を持ったことはありませんか?



臨床検査として測定できる項目が増え、診断にも様々なコンセンサスが提唱され始めた。昨今、正しい検査法によって正しい検査値を得ることは、当たり前のようにありますが、実際のところまったく混濁しているのが現状です。日々の診療の中で、信用できない検査結果が得られたり、検査項目間の辻褄が合わないかたたりして、頭を悩ませた経験は誰にもあるのではないのでしょうか。

今年度の年次大会では、正確な臨床検査のために、いま私たちができることを、セミナーに構成を考えました。教育講演では、普段の診療において正しい検査ルーティーンが実施できているかに焦点を当てました。守らねばならない最低ラインが間違いないか、実施されているか、各自改めて点検していただきたいです。そしてシミュレーションでは、各分野の検査のフローをお招きしています。我々の信じている測定値が、いかにあやふやなものなのか、その裏側を暴いていきたいと思っています。細胞診・フローラボでは例年どおり米岡専門医をお招きし、質の高いフィードバックが行われるものと期待しております。

本学会のコンテンツが、普段の検査の中で何を信じ、何を得ればよいのかのヒントになれば幸いです。

大会長 西敏直仁